



「自分らこそ、世の中を創った未来へ」

## CONTENTS

### 特集：

## 「身近にあるジェンダー」

### 1. ジェンダーって何!?

福島大学行政社会学部助教授 高橋 準

### 2. こんな光景 どう思いますか?

～未来館の利用者にインタビュー～

### センター事業報告

- ・オープニングイベント  
記念講演  
記念トーク&トーク
- ・「さをり織り」実演とトークの会

### センター事業紹介

- ・センター夏講座のお知らせ
- ・平成13年度新規業務のごあんない
- ・ボランティア紹介「図書・情報ボランティア」

福島県からのお知らせ

# ジェンダーって何!?

福島大学行政社会学部助教授  
高橋 準

「女らしさ」「男らしさ」を考える上で

重要なキーワードの「ジェンダー」は

わたしたちのたいへん身近にあるものなのです。

ジェンダー。

最近ようやく新聞などで、このことばをたびたび見かけるようになってきました。またその意味はあまり浸透していないようで、カッパ書きで「文化的・社会的な性の違いのこと」などと注釈が入っていたりします。

それでも少し前ですと、たとえばわたしのゼミの学生が就職活動をしているときに、面接で「大学ではジェンダーについて勉強しています」と言つと、面接官に「ジェンダーってなにをした人ですか」と聞き返されると、笑い話のようなこともありまして。さすがに最近ではそういう話は聞かなくなりました。

でも、はじめにあげたような説明では、実のところ何のことがピンときません。今回は少しそのあたりを探ってみたいと思います。

「文化的」「社会的」とは

何のこと?

最初気になるのは、「文化的」とか「社会的」とかって何のことだろう、というところでしょう。もちろんこれは、生物学的ではない、つまり、体の違いとか遺伝子の違いとか、そういうことじゃないということです。説明されてみれば、あなるほど……なんですけどね。

もう少しイメージを膨らませるために、ふだんわたしたちが生活の中でしていることで、例を考えてみましょう。

たとえば、わたしたちは、街で人とすれちがったりすると、まずその人が男か女かに目が

きます(その次はどのも年齢のようです)。これがなぜなのか、ひよっとしたら心理学的に説明が付くことなのかも知れないのですが、わたしは詳しくないのでわかりません。

ただし、そのとき一つだけ確かなことがあります。それは、わたしたちはすれちがった相手の身体をいちいち直接見たり、あるいは手で触ったりして、女/男の身体だと確かめて、その人が男か女か判断しているわけではない、ということ。

下手に人の身体にさわっちゃまずいのはもちろんです。あるいは、遺伝子なんて特別な設備がないとわかりません。時間もかかります(たぶんお金も)。だから、絶対そんなことは確かめていないわけです。

実はしている

「ジェンダー」の線引き

じゃあどうやって判断しているのか、というと、おそらく服装とかしぐさとか髪型とかそういったところから判断しているんでしょう。だけど、服も髪型も、身体そのものとは直接の関係はない、「文化的なもの」ですよ。つまり、





当センター主催『男女共同参画基礎講座』で講義する高橋さん

高橋 準(たかはし じゅん)

「私の自己紹介」

生業：福島大学行政社会学部教員。人使いの荒い大学で「ジェンダー論」と「現代文化論」をダブル担当。

生活：ウィークデーは福島で教員業、週末は東京で「女中」。

性格：性別欄の「男」「女」のどちらに をつけるかいつも悩む、優柔不断なタイプ。

What's gender?

わたしたちが街中でやっている「女なのか男なのか」の判断は、実はジェンダーの線引きをしているということなのです。

逆に考えてみると、わたしたち自身もそれらが相手から「女なのか男なのか」を判断されているわけです。そうすると、わたしたちも自分が男であるか女であるかのメッセージを、服装やしぐさや歩き方などで常に発しているということになります。

生活の全てをおおう「ジェンダー」

要するにわたしたちは、ジェンダーについてさまざまな知識をすでに持っていて、それを使いながら生活しているわけです。どうです、

ちよつとすごいでしょう？「そんなこと、やっているなんて考えたこともなかった。」そのとおり、みんながみんな意識的にやっているわけではなくて、たいていは無意識に行われていることです。

「服装やしぐさなんて他愛もないこと」と思われてしまいかも知れません。でも、もちろんこればかりではなく、「女らしさ」や「男らしさ」はわたしたちの生活の全てをおおって広がっています。ただ、深刻な問題になればなるほど、ふだんの生活の中には見つけにくくなります（深刻な問題がたくさんあつたら困りますから、それでいいんですけど）。そこで今回は、あえて日常的でささいなことから目を向けてみることにしました。

ということではありません。服装や身振りなどは自己表現に関わってくるからです。学校の校則で制服や髪の長さが決まっています、自分自身についてのイメージが決められてしまうのがたいへん苦痛だという人もいます。

身近なところに目を向けて

「女らしさ」「男らしさ」を考える上で重要なキーワードの「ジェンダー」、実はこのようにわたしたちのたいへん身近にあるものなのです。ぜひ、みなさんもご自分の身近なところにも目を向けて、それをもっと広く社会を見る目につなげていただきたいと思います。県の男女共生センターのいろんな講座は、その橋渡しをしてくれるはずです。ご利用下さい！

# こんな光景 どう思いますか

～未来館の利用者にインタビュー～

個人の尊厳が重視され、誰もが性別にかかわらずなく生き生きと個性を發揮できる社会 「男女共同参画社会」。その実現のためには、私たちの生活のあらゆる場面に存在する「ジェンダー」（文化的、社会的な性の違い）にとらわれなことが重要です。

しかし、「ジェンダー」に基づく行動は無意識に行われることが多いので、自分では「ジェンダー」に縛られた考え方をしていることに意外と気づきにくいものです。

そこで今回は、「女と男の未来館」にいらっしやった方に對して、イラストを見ていただき、感じたことをお話ししていただきました。

肉体的には男性がすべきである。女性ができる範囲で無理なくやればいい。  
(10代女性)

力仕事は男性の方が向いている。女性は事務的な仕事の方が向いているのでは。  
(10代男性)

女性でもやる気があれば、工事現場とかでも働いてもよい。  
(20代男性)

最近、女性が工事現場とかで働いている姿を見かけるようになってきたが、男性の職場に出てくるのが男女共生ではないと思う。  
(30代男性)

力仕事をやっている女性を見ると頑張っているなと思う。  
(40代男性)

男性と女性では体の構造とか機能が違う。力仕事は男性が向いているし、女性は子供を産むのが仕事である。  
(40代男性)

最近の若い女性はたくましい。  
(60代女性)

イラストは男性だが実際には女性の方がいいと思うので、ある程度のお茶出しは仕方がないかもしれないけど、ずっとは嫌だ。  
(10代女性)

このイラストのように、女の人ばかりではなく、自分もお茶出しとかしなければいけないのかなと思う。  
(10代男性)

仕事場で実際お茶出しをするのは女性なので、これはわざとらしい。でも、お茶ぐらいは男性も普通に出せればいい。  
(30代女性)

お茶出しを男性がするのは普通。職場でもやっている。  
(30代男性)

男だって来客があったときは、お茶ぐらい出すが、普段は出さない。  
(30代男性)

男性がお茶を出すようになるのはとてもいいことだと思うが、何も今まで女性がやってきたからといって、今度は女性でなく男性が出さなければならないということではないと思う。  
(40代女性)

男性が出すのは変。職場では女性がお茶を出すし、女性が出してくれると嬉しい。  
(40代男性)

男性がお茶を出すのはとてもいいことだが、実際お茶出しをしている男性はあまり見たことがない。  
(50代女性)

私たちが若い頃は女がしていたが、今は男がしてもおかしくない世の中になったのでは。  
(60代女性)

女性だから出す、

男性だから出すようにしなくちゃ、  
ということではなく、

手のあいている人がやればいいと思う。  
(40代女性)

女性でも力のある人はいるし、男性でもひよろひよろしている人はいたりと、個人差がある。

(50代女性)

現場  
のイラストを見て







## お互いに協力して 家事や育児をこなしていけばいい。

(10代男性)

ウチはお母さんしか料理しないので、男の人が料理するのはちょっと変だと思う。(10代女性)

私は働きたいので、仕事をしながら料理するのは嫌だ。男性に作って欲しい。(10代女性)

男性が料理をする話は結構聞くけど、実際にはあまりやっていない。(20代女性)

料理ができない女性もいるので、その時は男性がやるしかない。(30代男性)

相手がいなくなったときのためにも男性も料理をしなくてはならない。(30代男性)

男性の方が料理を上手につくれる。プロは男性が多い。でも家庭料理を作るのは女性の役割だ。(40代男性)

イラストのように夫にも家事と育児を手伝ってほしかった。今まで手伝ってくれることなんかなかったし、やっても下手だと思っ。(50代女性)

仕事を持っている男性が家事までするのはかわいそう。(50代女性)

(50代女性)

子どもが多く共働きだったこともあるが私はずっと料理や育児をしてきたので、このイラストは普通だと思っ。家事をするのに男だ女だと言っていられない。(60代男性)

(60代男性)



## 家事 のイラストを見て

今まで当然と思っっていたことも、もしかしたら「ジェンダー」に縛られてそう思っ込んでいただけかもしれない。

最近、イラストのような光景を見る機会が増えたので、特に違和感を感じていない方も結構いらっしゃるかもしれません。でも、「これは変だ」「こんな光景は普通はないよね」という御意見もたくさん聞きました。

「性別の違いで行動や役割を決めつけるのではなく、個人の希望や能力を生かすべきである」と頭の中では理解していても、実際に行動に移すのは難しいという方もまだまだ多くいらっしゃるようでした。

男女共同参画社会は、性別よりも一人一人の個性が重視され、「ジェンダー」にとらわれない生き方ができる社会です。男女共同参画社会を目指す取り組みは、つくられた「ジェンダー」の枠を意識的にはずしてものごとを見るところから始まるのかもしれない。

「この仕事、男性でないとできないって本当?」「こういう行動を女性がするのは変だと思っていたけど、そうだろうか?」

今までの自分自身の何気ない行動についてもそんな視点からちょっと振り返ってみませんか。



## お茶出し

のイラストを見て

# 福島県男女共生センター オープンニングイベント実施報告

福島県男女共生センター「女と男の未来館」オープンを記念して、平成13年1月18日から20日の3日間、各種イベントが開催されました。その中から、樋口恵子東京家政大学教授による記念講演と、船橋邦子大阪女子大学教授、佐藤栄佐久福島県知事、下村満子「女と男の未来館」館長による記念トークの内容を要約しご紹介いたします。

## 人権の保障される平和な世界へ

2000年6月の国連特別総会女性2000年会議の成果文書においては、ジェンダーの視点からの統計やさまざまな政策のジェンダーに対する影響調査などをしっかりやるように、という項目があげられております。

戦争の世紀であった20世紀を突き抜けて、何より願うことは、武力紛争のない、戦争のない、環境の破壊されない、一人ひとりの人権の保障される平和な世界です。

そして、女性2000年会議のテーマが、男女平等、開発、平和の21世紀のために、なのです。

2000年会議におきましては、この5年間のIT革命、エイズ問題とかへの取組みの成果が上がっているか、あるいはないか。では障害になっているものは何か、などを各項目ごとに確認し合いながら北京行動綱領、あるいはその前のナイロビの将来戦略を再確認し、問題点を指摘することが行われました。そして、その問題点の解決のために国内的、国際的になすべきことが話し合われました。

## 女性への暴力と法律

私がこの成果文書の中で、一番力こぶが入っていると思うものは、暴力に対する対応を早急にすべきだということ



記念講演

## 女と男のこれから

～女性2000年会議から見えるもの

東京家政大学教授 樋口 恵子

す。文書には各国政府が女性に対する暴力への対応について取るべき行動として11項目あげられ、女性に対する暴力などに対する立法措置を導入することを念頭に置いて、法律の再検討や改正を行うとともに、その他の必要な措置を取って、あらゆる女性や少女がいかなる形態の肉体的、精神的、性的暴力からも保護され裁判に訴える手段が与えられるようにする、から始まってそのほか10項目の細かな内容が記されております。私どもの見

るところからも、この辺りが日本の措置として遅れているところです。

法律には、理念を掲げる法律もあれば、事実を追認する法律もあれば、あつちこちの法律に規定が散っているけれど、今これをきちんと宣言し総合的に対応しましょうという法律もあります。女性に対する暴力を撤廃するための法律も、言ってみれば、いろいろ散っているものを統合し、これからの社会はこういうものだという宣言効果を持つとともに、具体的な措置の面でも一歩前進するための法律だと思っんです。

## 「おばあさん」が21世紀を支える

基本的には追い風ですが、伝統という言葉の中の逆風もあります。2000年会議成果文書の中にもそれぞれの国、社会にはそれぞれの違いがあつて、それらは大切にされなければならない、しかしそれは、女性の人権を確保し、その人権を向上させるということと矛盾してはならないという意味のことが書いてあります。

男女共同参画、男女共生を進めない社会は徐々に衰退していくでありましよう。

2000年代に日本は高齢化のピークを迎えます。三分の一が65歳以上です。21世紀は、「おばあさんの世紀」であります。このおばあさんが自立して、エンパワメントされ、社会の中核としてしっかり政策決定に関与し、物事に参加していかなかつたら21世紀は相変わらず闇なのであります。

女性の皆様も男性の皆様も、どちらを選ばれますか。





## 記念 トーク&トーク

# 「男女共生センターのこれから」

船橋 邦子 大阪女子大学教授  
佐藤栄佐久 福島県知事  
下村 満子 「女と男の未来館」館長



## 男女共同参画社会の大切さ



下村 男女共同参画社会は一種の合い言葉となつていますが、男性からそれは何なのかと聞かれるなど、意識のギャップがあると思います。なぜ男女共同参画社会が大切なのかを含めて、お話を。

船橋 女性差別があるのなら、男性差別もあるとか、特別の女性達の問題だとか、学生では差別を受けたことがないなどといいます。が、やっぱり力関係でみるとまだまだ両性の間は決して平等ではない。

歴史的には、白人の障害を持たない男性達が中心として作ってきた価値観がよいこととされ、女性は優しく、男は男らしくなくてはいけないといわれた。男は子どもが大きくなるその命を育む喜びも何も知らない。男女共同参画社会は、一人ひとりの命をかけたえのない存在としてみる人権というものを基本において、しかも暴力のない平和な社会、新しい価値観をベースにした社会を作っていくこととことです。その意味では、決して女性が今抱えている差別問題だけではない。男だって悲しいときには泣く。それが人間らしい生き方です。男性にとっても女性にとっても、性別にとらわれないで人間らしく生きられるというのが目的なのです。

下村 今この時点における女性も男性も決して理想的で幸せな状況にはない。男の細腕で妻子を抱え、命綱一つで凄いストレス。男性の所得が多かるうと女性の方が多かるうと、二人で協力しながら命綱二つ持つ方が、一人倒れても一家全滅にならない。この保険をかけ

るような意味の協力もあります。



佐藤 現在、県職員で入庁して7年目の女性、男性がどういう仕事をし、性による差別がされていないかチェックしています。ここで問題なのは、管理職になれば苦労するわけで、女性の方で拒否反応があると女性の登用がストップしてしまつて。

下村 女性側にも問題がありますね。責任を取る、批判されるのがこわいとか、そこを一つ飛び越えて積極的に、むしろ自信なくともやってしまつてほしいと思つてやれば、鍛錬され伸びていきます。

船橋 かけ声でなく大事なものは、そこに住んでいる人達のニーズが何なのか、住民のみなさんで実態調査をしながら政策を作っていくその位の力のある人達をどのように育成するかですね。

## 女と男の未来館に望むこと

佐藤 ボランティアでこのオープンの計画を作った企画委員の皆さんが、生き生きとお手伝いをしながら進めているのを見まして、こ

れからのこつこつという施設のあり方を承知しているなと思ひました。情報、調査研究を含めそつこつ面でも日本、世界をリードするような部分をもつていただきたい。ネット社会ではどんな情報がアクセスされるのですから、ここが本拠地になって、職員というよりはボランティアの皆さんがその部分に入つて進めていただくような館になってほしい。



船橋 私が館長をしていた佐賀の女性センターは「アバンセ」という名称でしたが、オープン

の段階からいかに県民の方が主体のセンターにするか、と真剣に考えました。運営委員会には公募の委員にも入っていたら、どんな意見を出し合う。県民の税金で出来たものだから一部の人の物であつてはいけない。税金をどう効率的に使うかということで、事業部長は営業部長だといくらいい伝し、館長の出前講座、招き講座などをしました。センターが機能するかどうかはここに来られない方の声、声にならない人の声にど

のように耳を傾けるかということにかかっている、といつても自分に言い聞かせていました。

下村 この館は大勢のボランティアの方々、企画その他は企画委員の方々に支えられております。この力がなければ、私たちは到底運営できない。こつこつ力があるのは素晴らしいことで、いずれ皆さんに本当に乗っ取っていただき、イニシアティブをとつてやっていただきたい。私は黒子に徹するのが理想ではないかと思ひます。

こは男女共生センターなので、女性とともに男性にも来ていただきたい。プログラムも男性、夫婦、カップルでいるんな生き方を話し合つとか、政治・経済などをもつと女性に知ってもらつための企画とか、暮らしに直結する問題もいろいろ取り上げていきたい。

福島県の県民の皆さんに貢献する、あるいはサービスする場であり、実験場でもあります。同時にここから全国にいろいろな情報、調査研究の結果、活動、そつたものを全国レベルで発信し、更にもう一段、国際的な発信もしていきたいと思つております。

# 「さをり織り」 実演とトークの会



「さをり」についての情熱を語る城みさをさん

当センター館長下村満子と30年来の親交があり、「さをり織り」創始者である城みさをさんが、当センターへ「さをり織り機」を2台寄贈されたことをきっかけに、平成13年5月11日に、「さをり織り実演とトークの会」を開催いたしました。下村館長と城さんとの熱の入ったトークの後には、目にも鮮やかな「さをり」を身にまとったのアクションショーなども行われ、会場は大盛況となりました。

## 「さをり」の精神

城みさをさんは、子育てを終え57歳から「さをり織り」を始めら



会場を華やかに飾った「さをり」

れました。誰にも教わることなく自分の感性のおもむくままに織る「さをり織り」は、自分の個性や輝きを表現しています。  
「全ての人間は感性を持って生まれてきています。しかし、ほとんどの方は自分が感性を持っているということを知らないのです。」(城さん)



実演会には多くの方々に参加されました

「さをり」と他の織物との違いを城さんはこうおっしゃいます。「いままでの織物は物でありました。『さをり』は作品です。『さをり』を織る人は熟練工でもなんでもない素人です。しかし、自分の思いを吐き出している、いわば自分の分身を織っているのです。つまりは物と自分の分身との違いなんです。」自分が考えて考えて、自分で見つけたものは人から教わったものよりも数倍嬉しいということ。(城さん)

「本物こそが人を感動させる」  
「城さんは織りに、私の場合は原稿を書くときに、もう夢中になつて、完全燃焼していますけれど、これは何も織りや原稿を書くときにだけ言えることじゃありません。不満を世の中のせいにして、不完全燃焼の人が多い中、城さんは100%燃えた生き方をしている。これは本物だと思っただけです。」  
「世界中どこでもみんなが心打た



ファッションショーは大いに盛り上がりしました



「さをり」を着た人全員が舞台上に上ったのフィナーレ

れる、それが本物ですからね。社会的に有名な方でも、本物は本当に少ないです。偽物と本物とを見分ける目が我々に必要なのです。」(下村館長)

**性別 年齢の違いや 障害の有無を越えて**

「織りというのは昔から、女の仕事とされてきたんです。みんなも社会もそう思ってきた。これは間違っていると思っただけです。男も女も関係なくすばらしい織りができるのに。」(下村館長)

「男も女も関係ないのです。それだけではなく、障害の有無も関係ないのです。障害を持った方たちが素直に自分を表現してみたら

すばらしいものが出来上がったのです。」(城さん)

「組織の中に入り、既成概念に縛られ、ルールとか規則とか、男たるものこうあらねばならないとか、がんじがらめになっているのは、女性よりも男性の方がもしもせん。男女共同参画社会とは、男だけが外で働いて、女だけが家庭で家事育児をする、そういう分担制度みたいなことをなくすことだと思つのです。男性も女性も外の仕事もすれば、内の仕事もする、ということが大昔からの人間の自然な姿で、私は21世紀はまたその自然な姿へと戻っていく時代だと思つています。」(下村館長)





平成13年度夏講座  
**第3回未来館トークサロン**と語る会  
 開催日／7月15日(日)  
 開催場所／ホテルサンルート白河  
 募集締切／7月6日(土)

**講座内容**  
 今年1年かけて県内各地で開催予定の、国際的ジャーナリスト・下村館長と県民の皆さまとのトークサロン。第3回目は県南地方で行います。  
 男女共同参画社会実現のための問題点、日頃考えていること、疑問・質問、何でも...。下村館長と話し合い、いっしょに考えてみませんか？

女性の自立や社会進出に具体的に役立つ講座やパソコンや簿記などスキルアップに直接結びつく技術の講習会が開催されます。

平成13年度 夏講座開催

講座名	開催	開催場所	募集締切
働く女性のための応援専科	6/30(土)、7/7(土) 7/20(金)、7/28(土)	福島県男女共生センター	6/23(土)
能力開発講座	7/1(日)、7/8(日)	福島県男女共生センター	6/20(水)
女性起業家育成講座	8/25(土)、8/26(日)	福島県男女共生センター	8/11(土)

女性就業援助技術講習会

講座名	開催	開催場所	募集締切
パソコン初級講習会	7/4(水)～8/10(金)	相馬市労働福祉会館	申込方法は、広報等で別途お知らせいたします。
	8/17(金)～9/17(月)	郡山地域職業訓練センター	
簿記3級講習会	9/7(金)～10/31(水)	福島県男女共生センター	
	9/17(月)～11/9(金)	郡山地域職業訓練センター	
	9/21(金)～11/8(木)	いわき合同庁舎分庁舎	



**講座内容**  
 情報化社会に対応するため、IT基礎技能(パソコンの基本操作等)を習得する講習会を開催します。  
 インターネットを使ってみたい...。友達と電子メールで通信したい...。  
 こんな方は、ぜひ受講してみませんか？ パソコン初心者も大歓迎いたします。

平成13年度夏講座  
**第4回**  
**IT基礎技能講習**  
 開催日  
 8月7日(火)～8月10日(金)  
 開催場所  
 福島県男女共生センター  
 募集締切／7月25日(水)

相談の場所	電話番号	担当地区	相談時間
福島県男女共生センター	☎0243-23-8307	県内全域	火曜日、木曜日～日曜日: 9時から12時、13時から16時 水曜日: 13時から17時、18時から20時
福島サブセンター (福島パートバンク内)	☎024-528-4171	福島市、二本松市、伊達郡、安達郡、原町市、相馬市、相馬郡	月曜日～本曜日(都合により変更になることがあります。) 9時から12時、13時から16時
郡山サブセンター (ふるさと福島就職情報センター内)	☎024-931-1145	郡山市、須賀川市、田村郡、岩瀬郡、石川郡、白河市、西白河郡、東白川郡	
会津サブセンター (会津若松公共職業安定所内)	☎0242-26-3333	会津若松市、喜多方市、北会津郡、河沼郡、大沼郡、耶麻郡、南会津郡	
いわきサブセンター (平公共職業安定所内)	☎0246-22-6400	いわき市、双葉郡	

平成13年度  
**新規業務のごあんない**  
 外で働きたい女性や、内職をしたい女性、内職者を探している事業者のみなさんを応援します。  
 福島県男女共生センターでは、働きたい女性が自分の能力を開発し、企業の即戦力となりうる各種技術講習会を無料で実施しています。  
 専門の相談員が、働きたい女性や内職を探している方の各種相談を受け、情報を提供し、働きやすい環境整備を応援します。  
 また、内職者を探している事業者の方へ無料で希望者を紹介します。  
 相談窓口は次のとおりです。

当センターでは、いろいろな分野でボランティアの皆さんが活躍しています。今回は、「**図書・情報ボランティア**」を紹介いたします。

図書・情報ボランティアは、男女共同参画関連記事の新聞クリッピング、図書室情報端末の操作の案内、図書の整理、図書情報紙「ライブラリー散歩道」の作成など、当センター図書室において、利用者の方々のサポートや図書室のPR活動等を行っています。

### 図書・情報ボランティアの活動の魅力は？

「利用者の方々と交流を深められることが一番楽しいです。年配の方とは季節や天気のお話をしたり、若い人たちからは人生相談を受けることもありました。この図書室を、もっともっと多くの方に利用してほしいと思いますね。」

(ボランティアの田村さん)

男女共同参画に関する記事をクリッピングします。



利用しやすい図書室の環境を整えています。



図書情報紙「ライブラリー散歩道」の編集風景です。



情報検索のための端末操作も心配いりません。親切にお手伝いします。

利用申込募集中心！使用料無料

## 交流室ロッカー・交流展示スペース

男女共生センターでは、男女共同参画社会の推進を目的とした活動を行う団体や個人の方に、荷物保管用ロッカーや展示スペースを無料でお貸ししています。

### 交流室ロッカー

**申込資格**：おおむね年に6回以上、当センターを利用して男女共同参画社会の推進を目的とした活動を行う団体・グループ  
**利用期間**：館長の承諾があった日から平成14年3月31日まで（利用期間満了後は再度利用申込みが必要です。）  
**利用上の注意**：御利用にあたり、次の事項は固くお断りいたします。



館長が利用承諾した団体・グループの会員以外の方が利用すること。

ロッカーのカギを複製すること。  
危険物や腐敗しやすいものを保管すること。

### 交流展示スペース



**申込資格**：男女共同参画社会の推進を目的とした活動を行う団体・グループ又は個人（ただし、男女共同参画社会の推進を目的とした活動の成果品等を展示する場合には限りません。）

**利用期間**：原則として30日を超えない期間

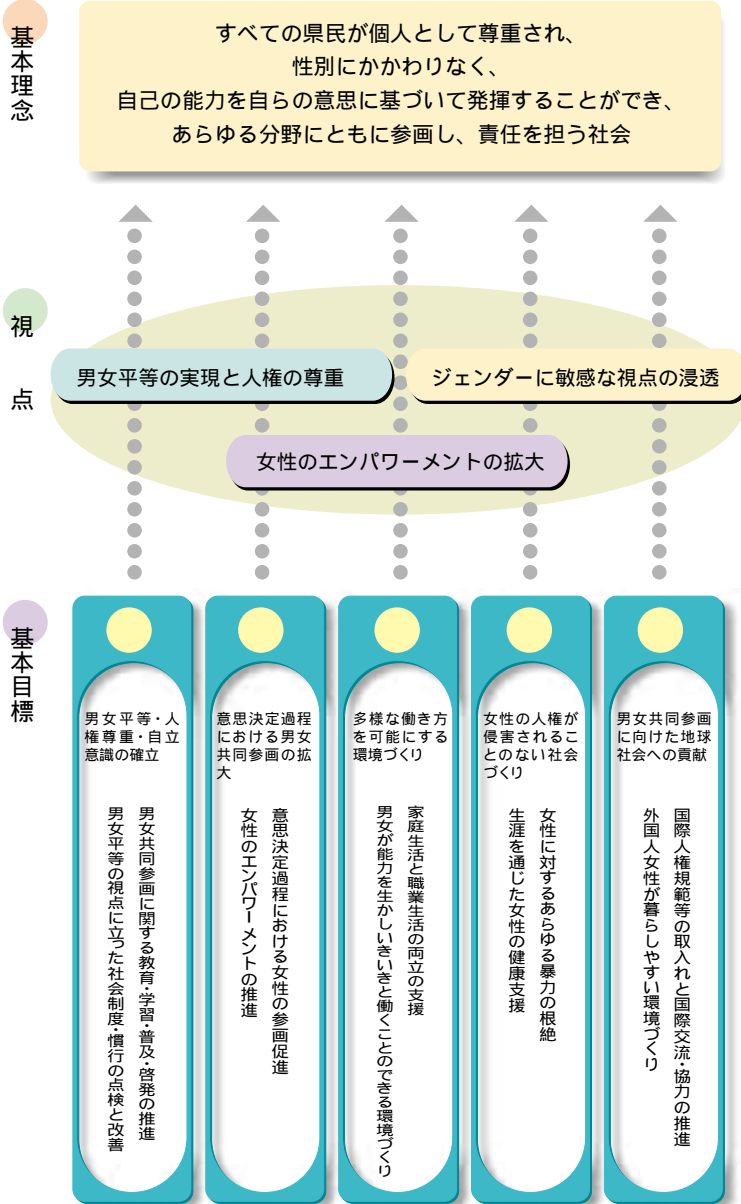
**申込受付**：利用希望期間の6ヶ月前から受け付けます。

お問い合わせは、事業課  
TEL 024312318304  
FAX 024312318314まで。



# 福島県からの お知らせ

ふくしま男女共同参画プランのイメージ図



男女共同参画社会の実現が、21世紀の最重要課題となっています。福島県では、「男女共同参画社会」実現に向け2010年(平成22年)度を目標年次としてこのほど、「ふくしま男女共同参画プラン」を策定しました。実効あるものにするために、県や市町村の取り組みはもちろんのこと、県民や事業所の皆さんの協力が必要です。

## 「ふくしま男女共同参画プラン」について

### 「福島県男女共同参画推進条例」(仮称)策定へむけスタート

平成13年6月6日(水平成13年度第1回男女共同参画推進会議が開かれ、第1回条例検討部会の設置と委員の委嘱が行われました。

### 機構改革により、組織が新しくなりました。

人権に関すること、ボランティアに関すること、NPO活動に関すること、男女共同参画社会形成に関することを事務として所掌しています。  
(福島県生活環境部 県民生活課 人権・男女共同参画グループ)

#### お問い合わせ

**福島県生活環境部 県民生活課  
人権・男女共同参画グループ**

☎024 - 521 - 7188 ㊚024 - 521 - 7922

ホームページアドレス <http://www.pref.fukushima.jp/danjo/>  
メールアドレス danjo@pref.fukushima.jp



## センターからのお知らせ

男女共生センター図書室は、男女共同参画に役立つ資料や情報の宝庫です。女性学・男性学・ジェンダー学をはじめ、労働、福祉、家族問題など男女共同参画に役立つ図書を収集しています。

貸出冊数・貸出期間は、  
 図書5冊 15日間(借りた日から2週間)  
 ビデオ3本 8日間(借りた日から1週間)以内です。

どなたでもお気軽にご利用いただけます。詳しくは、「男女共生センター図書室」  
 ☎0243 23 8308 (図書室直通)までお問い合わせください。



## 編集後記

・インタビュアーにに応じてくれた高校生が「ジェンダー」という言葉を知っていました。おっ、進んでいるな、すごいなと思ったら、「だって、テストに出ましたから。……」そうか、この言葉、テストに出せば確実に普及するのかも。(OT)

・着任してまだ2ヶ月余、男女共同参画社会とは、そして実現のためには……。まだまだ努力が必要だと感じる今日この頃です。(KT)

## access



所在地 / 二本松市郭内一丁目196-1



JR東北本線 二本松駅より徒歩12分  
 東北自動車道 二本松I.C.より車で5分



### 風情豊かな城下町から世界へ情報発信

東の阿武隈高地、西の奥羽山脈により中通り、会津、浜通り地方に三分されている福島県は、火山や湖沼・高原・海岸など豊かな自然に恵まれています。ここには、「智恵子抄」にうたわれた「あの光る阿武隈川」や「ほんとの空」があり、人・モノ・文化・情報の活発な交流が行われています。

「女と男の未来館」のある二本松市は、中通りに位置し、提灯祭りや菊人形が催され、風情豊かな城下町です。

### 未来館NEWS NO.2 2001年7月

編集・発行 (財)福島県青少年育成・男女共生推進機構  
 福島県男女共生センター ~女と男の未来館~  
 〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1  
 ☎0243-23-8301(代) ☎0243-23-8312  
 ホームページアドレス: <http://www.f-miraikan.or.jp>  
 メールアドレス: [mirai@f-miraikan.or.jp](mailto:mirai@f-miraikan.or.jp)

表紙の作品  
 再生 20pcs. (近藤 康広)



この広報誌は、古紙配合率100%再生紙を使用し、環境にやさしい大豆インキを使用しています。



うつくしま未来博